

# 製造工程のトレーサビリティで信頼を得る 伝統産業の事業承継にも貢献

呉服の業界といえば、市場が縮小している厳しい業界と考えがちだ。しかし、「戦後の特需からの調整がうまくできなかったこと、モラルを逸脱した販売が横行したことによる消費者からの不信感が大きい」と京都府京都市・織彦の樋口恒樹社長は話す。

同社は西陣織のメーカーであり、取引先との連携で毎月50点ほどの商品を企画・販売している。呉服販売では売手の力が強く、強引な販売があっても生産地を偽るような売り方をして、メーカー側がそれを抑えるのは難しかった。

## 消費者が納得する販売へ すべてを明らかに！

各工程の職人が丹精こめて作った西陣織。価格が50万円ならば、それには相応の理由がある。実際



代表取締役 樋口恒樹氏(写真中央)  
「トレーサビリティ導入プロジェクト」のメンバーである2社の経営者  
野崎織匠 代表取締役 野崎敬史氏(左)  
京都キノノ・サービス 専務取締役 柴田勝氏(右)

の製造に携わる匠の技を知り納得して選んでほしい——樋口社長は消費者への正しい情報発信が業界の健全化、そして市場拡大につながることを考えた。

そこで、西陣織や京友禅の各工程を担う8社に声をかけ、製造履

には秘伝の情報もあるので、データは自社管理し、公開したいもの

だけをWebサーバーにアップする方法に落ち着きました」と藤原氏は説明する。

8社は企業間の壁を取り除くため、最初にコードの統一を手掛けたという。

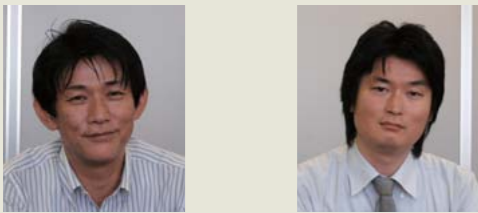
本システム完成後、出荷される商品には商品番号(タグ)がつけられ、本プロジェクトが運営するホームページ「はんなり京都きもの博士」(<http://kimono-kyoto.biz/>)から、製造工程を見ることが出来る。携帯電話のQRコードにも対応して

いる。

トレーサビリティシステム構築後は、顧客からの信頼を高めることができ、新たな販売チャネルが見つかったという。また、過去のデータを参照できることで見積の作成もスピードアップした。

販売した着物や帯が親から子へ渡っても、商品番号によっていつでも商品の製造履歴を知ることができる。現在も、リメイクの仕事を手がけているが、今後は自社商品については企業側も履歴を参照しながら8社との連携でアフターケアやリフォームが行える。

## プロジェクトをサポートした支援機関 京都府中小企業団体中央会



事務局長 山口靖弘氏 企画調整課主任 木村好孝氏

中小企業団体中央会は、組合等の団体・組織を支援する機関。最近では、企業への支援まで踏み込んでいるケースがあり、京都でも「場合によっては組合の役員をされている企業等へも巡回をさせていただきます。私どもが対象とする700団体の先には8万社の企業がありますので、いかに情報を届けるかに課題意識を持っています」と事務局次長の山口靖弘氏は説明する。

織彦が8社と進めたトレーサビリティプロジェクトでは、同中央会が実施する「平成19年度京都ブランド・新分野開拓事業」を利用した。京都らしいもの・京都の技術を活用した新商品・サービスの開発を進める組織・プロジェクトが対象となり、費用の10分の6が補助される。

「すでに食の安心安全でトレーサビリティが注目されていましたが、高額な商品が消費者に渡る時にそのルーツを知らせるのも、非常に有効だと思います」(山口氏)と、この取り組みを評価する。また、企画調整課主任の木村好孝氏は、「繊維・染色は比較的縦割りになりやすい業種です。その常識を破って川上から川下まで連携し常識を破ったところが新しい」と話す。

中央会では、IT活用支援以外にも多様な支援を行っている。最近では京野菜販売協同組合が開発した京野菜スープなど、京都ならではのプロジェクトもあるようだ。

## サポーター紹介



ITコーディネータ  
藤原正樹氏  
公立大学法人 宮城大学  
事業構想学部 教授  
<http://www.myu.ac.jp/>

ITベンダーに勤務し、京都を基盤に情報化支援を行っていた。2009年4月から宮城大学で教鞭をとり、「経営情報システム」を研究している(博士号を取得している)。

織彦の支援においては、これまで使っていたデータベースシステムを8社で使う情報公開用のシステムにする必要があった。その方策をメンバーの意見を聞きながら整理していった。

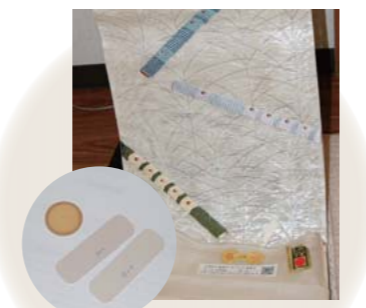
プロジェクトの後半では、システム完成後を見据えてマニュアルの準備や説明会の準備など、定着させるために必要なアクションを洗い出し、道筋を示した。

樋口社長は「我々にとってITははるか遠くの世界ですから、進む方向を教示してくれるのはありがたい。システムのイメージ図などは書くことができませんので、先生と役割分担ができてプロジェクトが前に進んだという印象です」と指摘する。

システム利用者と専門家との良いチームワークができたようだ。

## 伝統産業こそIT 時を越えてノウハウを残す

先頭になってプロジェクトを



商品についている商品番号。  
今後はICタグへの対応も  
検討中(左下)

「この番号は着物や帯が使われている間はずっとサーバーに残します」と樋口社長は話す。トレーサビリティを通じて、消費者と長期にわたる関係を持続していく。本システムは、呉服業界に限定せず、今後、手仕事中心の業種に広く利用を呼びかけていくという。

## 基本データは自社管理 公開したいものをアップ

プロジェクトの推進には専門家

歴史情報を蓄積してWebサイトから消費者に公開する「伝統産業におけるトレーサビリティの導入プロジェクト」を進めた。京都府中小企業団体中央会の「京都ブランド・新分野開拓事業」に採択され補助金の支給を受けることもできた。

### 会社概要

### 株式会社織彦

京都府京都市上京区  
堀川通中立売上る206-303  
設立：1978年  
従業員数：2名  
事業内容：西陣織製造販売・和装製品全般の加工と販売  
URL：<http://kimono-kyoto.biz/>



購入した着物類のトレーサビリティがわかるWebサイト  
「はんなり京都きもの博士」  
<http://kimono-kyoto.biz/>

引つ張る樋口社長は、実はかなり前からITのメリットを感じていた。きっかけは事業承継だったという。

自宅と職場が離れた現在、技術やノウハウを自然に子に伝えることはできない。そこでコソコソと製造から販売までの様々な情報をデータベースに残していたのだ。それが、トレーサビリティシステムへと発展したのである。

「伝統産業が将来を見通したとき、一番必要なのはIT化ではないでしょうか。後を継ぐ人がそれを見ず動けるなら、伝統は残せます」

樋口社長が尽力する西陣織のトレーサビリティは、生産者と消費者、生産者と後継者をつないでいる。

長期にわたって安心して着てほしい

